

令和4年度（2022年度）
教育委員会事務 点検・評価

（令和3年度（2021年度）実施事業）

資 料 編

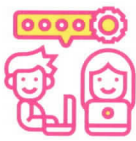
ワクワクする
教育を、
みんなで。



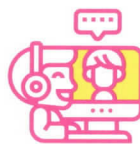
ふるさと納税の仕組みを活用したガバメントクラウドファンディング【第2弾受付スタート】 鎌倉スクールコラボファンド

鎌倉の小・中学校で、子どもも教師もドキドキワクワクするような教育活動を、大学や教育ベンチャー等の豊かな人材・組織とのコラボレーションを通じて実現していく鎌倉市のプロジェクトです。

「鎌倉スクールコラボファンド」では、こんな取組が実現できます



リアルな社会課題に
基づく課題解決型
学習



ICTを活用した個別最適な
学びの構築に向けた
学校の伴走支援



自分の思いやアイデアを
カタチにする魅力的な
プログラミング学習



鎌倉市長
松尾崇



神奈川県鎌倉市よりメッセージ

今後訪れるSociety5.0。より良い社会を創るために必要な教育を学校と社会が
協働して実現していく。そんなワクワクする学校づくりを鎌倉から発信していきます！



鎌倉市教育長
岩岡寛人



ふるさと納税は
鎌倉スクールコラボファンドへ！

【第2弾】
受付期間

58

2021
10.4(月) - 12.31(金)

お申込みはコチラ



時代の要請に応えたワクワクする教育を実現したい。

学校だけではリソースが足りない。

でも、みんなの力を借りれば、できるかも！

鎌倉スクールコラボファンドは、魅力的な人材・組織とのコラボレーションにより、子どもたちがSociety5.0を生き抜く力を育む教育活動の実現のために活用します。

鎌倉スクールコラボファンドを活用した取組や学校教育に関する情報を随時更新中！

進め、
鎌倉ペンギン



note版
はこちら



鎌倉の教育にたずさわっている人たちからのメッセージ



鎌倉市
教育委員
朝比奈 恵温

たくさんの魅力的な人が住む
鎌倉ならではの取組です。



鎌倉市
教育委員
長尾 直美

未来を生きる子どもたちに、みんな
で夢のある教育を届ける。子育て
世代の一人としてワクワクします。



鎌倉スクールコラボ
ファンドを活用した
市立小学校の
先生たち

ずっとやりたかった「子どもの思い
を活かすSDGsの学び」が実現で
きました。



鎌倉スクールコラボ
ファンドを活用した
市立中学校の
先生

コラボレーションによって、学校だ
けでは創れない授業を生み出せる
ことが大きな魅力です。



プログラ
ミング学習

個別最適
な学び

課題解決
型学習

ワクワクする教育を、
みんなで。

and
more!



皆さまからいただいた支援で
こんなコラボレーションが実現しています！

令和3年度、市立小学校1校・中学校1校で大学やNPOと
コラボレーションした「SDGsをテーマとした課題解決型学
習」（総合的な学習の時間）を実現。地球環境問題、ダイ
バーシティ、フードロスなど子どもたちが自分で設定した社
会課題の解決策を探究する学習を進めています。



お申込みはインターネットが便利です

ふるさとチョイス
ガバメントクラウドファンディング®

※このプロジェクトへの寄附は、
ふるさと納税対象です。



ふるさとチョイスガバメントクラウドファンディング
『鎌倉スクールコラボファンド』へ

<https://www.furusato-tax.jp/gcf/1387>

お問い合わせはこちら

鎌倉市

神奈川県鎌倉市
共生共創部 企画課 ふるさと寄附金担当

TEL 0467-61-3845 (直通)

FAX 0467-23-8700 (代表)

Mail: furusatokifu@city.kamakura.kanagawa.jp

寄附の手順や
プロジェクトについて等

鎌倉市 学校職場環境改善プランⅡ

令和3年（2021年）3月
鎌倉市教育委員会

目 次

1	プランⅡの策定について	・・・1
2	プランⅡの目的	・・・1
3	プランⅡの目標	・・・1
4	プランの進捗状況について	・・・2
5	プランⅡの期間	・・・3
6	その他	・・・3
7	プランの取組内容	・・・3
	(1) 業務改善に向けた取組	・・・3
	(2) 人的配置による支援の取組	・・・6
	(3) プランの推進のための取組	・・・7
	(4) 快適に過ごせる環境整備に向けた取組	・・・8
8	プラン策定後の安全衛生の取組について	・・・9
9	学校業務改善アドバイザーから	・・・9

1 プランⅡの策定について

教職員の職場環境改善を目的として、平成30年（2018年）2月に「学校職場環境改善プラン」を策定し、平成30年度（2018年度）から令和2年度（2020年度）の3年間、目標達成に向けて取組内容の実施に努めてきました。新型コロナウイルス感染拡大防止対策の影響により、取組内容の一部が未実施ではあるものの、それ以外の取組はおおむね予定どおりに進行しています。

プランに示した取組が着実に実施できているか、令和2年（2020年）6月、教職員勤務実態調査※を行い、前回の数値及び自由記述から改善の傾向にあるか確認しました。

その結果では、前回平成29年（2017年）7月に実施した同じ調査結果と比較し、教職員の時間外勤務の減少や、休暇取得日数の増加など、負担が軽減されている状況が伺えました。 ※新型コロナウイルス感染拡大防止に係る休校の影響を避けるため、同年1～2月の状況を回答

ただし、職種によって、自宅での作業時間の増加や、教頭職の休息時間の減少など、新たな課題も見えてきています。また、自由記述では、会議の回数の多さ、時間の長さについての指摘や、分掌業務の負担や特定の教員への偏りについての不満等が挙がっています。

問題点は、挙げればきりがありますが、衛生懇談会や安全衛生協議会で議題として採り上げ、検討することにより、校内体制等で解消できるものもあります。

今後も、更なる取組の継続が必要となることから、現在の取組の効果を検証するとともに、見直し・検討を行い、プランⅡとして策定するものです。

2 プランⅡの目的

教職員が心身ともに健康を維持し、教職の喜びを感じながら、生き生きと働くことができる職場づくりを進め、子どもたちとしっかり向き合う時間や自己研鑽できる時間を確保することによって子どもたちの健やかな育ちにつなげることを目的とします。

3 プランⅡの目標

今回の調査の結果、当初プランに掲げた目標については、ほぼ全てにおいて改善されていることが確認できました。

このことを踏まえ、プランⅡの目標は次のとおりとします。

目標を達成するためには、教育委員会による環境整備とともに、管理職及び教職員自らの意識改革がとても重要です。今後も取組を継続することにより、より一層の職場環境改善を図っていきます。

- (1) 退勤時間が早まること
- (2) 時間外勤務が減少すること（数値目標設定）**
- (3) 自宅での業務時間が減少すること
- (4) 勤務を要しない日（土・日・祝日）の出勤が減少すること
- (5) 休暇（年次休暇）の取得状況が改善されること **（数値目標設定）**
- (6) 休憩時間の過ごし方が改善されること
- (7) 出退勤管理によって働き方が見直されること
- (8) 部活動の負担が軽減されること**
- (9) 小学校給食の公会計化により時間的・精神的負担が軽減されること**
- (10) ICTを活用し業務を効率化すること**

4 プランの進捗状況について

達成できたプランの取組内容については、次のとおり。 ※西暦は省略

	取組内容	実施	○効果 と ●課題
(1) 業務改善に向けた取組	ア 出退勤時刻の管理	- 令和元年9月、中学校で校務支援システムにより実施開始 - 令和元年11月、小学校でPCとICカードにより実施開始	○月ごとの時間外勤務が容易に把握でき、業務内容の振り返りができる ●公費での全教職員へのICカード配付（小学校）
	イ 夏季休業中の閉校日の設定	- 平成30年度、試行的に全校実施、特に問題は出ず - 令和元年度以降、毎年度実施で調整	○市内全25校一律に実施による確実な休暇取得 ●休暇を取得しなければならない
	ウ 夜間の留守番電話の設定	平成30年7月、留守番電話設定（小17時頃、中18時頃）	○業務に集中できるため非常に有益
	エ 部活動の休養日の設定	- 平成30年7月、部活動検討委員会設置、ガイドライン策定 - 平成31年4月以降、休養日設定	○休養日を設定し、時間外勤務の減少につながった
	ク 調査・報告依頼の精選	市への提出文書のうち職印が必要なものの精選	○職印が必要な文書の削減
(2) 人的配置	ア 小中一貫教育推進のための市費非常勤講師の配置拡充	平成30年度、非常勤講師を4名配置、令和元年度に6名配置	○小中一貫教育の推進
(4) 環境整備	イ 学校トイレの改修の実施	令和2年度、計画を前倒しし、で全小中学校トイレ（建設以来、未改修のもの）改修終了	○快適な環境整備
	ウ 教室への冷房設備の設置	令和元年度、小中学校全校の普通教室に冷房設備設置完了	○快適な環境整備
(5) その他	ア 学校安全衛生委員会の設置	- 平成30年11月、鎌倉市立学校教職員安全衛生管理規程を制定、安全衛生協議会を設置、学校訪問試行 - 平成31年4月、各学校で月1回の衛生懇談会開始 - 令和元年5月、第1回安全衛生協議会開催	○学校訪問時、学校訪問産業医による職場環境改善への助言 ○長時間勤務者や精神面の不調を訴える教職員への面接指導 ○衛生懇談会結果に基づき、安全衛生協議会での職場環境改善の検討 ●取組の周知が不十分

5 プランⅡの期間

プランⅡの計画期間は、令和3年度（2021年度）から令和5年度（2023年度）の3年間とします。

6 その他

学校における働き方改革の推進に伴い、「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」が改正（令和元年（2019年）12月11日公布）され、同法第7条に基づいて、文部科学大臣が、教育職員の業務量の適切な管理等に関する指針を定めました。

これに伴い、県教育委員会及び市町村教育委員会においても、その所管に属する教育職員の在校時間の上限等に関する方針を定めることとされたため、「鎌倉市立学校の教育職員の業務量の管理に関する規則」を制定し、令和2年（2020年）7月1日から施行しています。

内容については、教育職員の健康及び福祉の確保を図り、もって学校教育の水準の維持向上に資することを目的とし、教育職員の業務時間について、業務を行う時間から所定の勤務時間を除いた時間を、原則、1か月において45時間以内、1年において360時間の範囲内とするよう、教育委員会が適切な管理を行うものとしています。

各学校において、管理職は、学校経営方針に働き方改革の視点を盛り込み、教職員の職場環境向上のための適切なマネジメントを進めるとともに、教職員はワーク・ライフ・バランスを十分に意識しながら業務に取り組むことが大切です。

7 プランの取組内容

（1）業務改善に向けた取組

ア 校内業務の見直し【新規】

教職員が時間外勤務について客観的方法で把握できるようにするため、令和元年度（2019年度）から、小・中学校においてシステムによる出退勤管理を行い、業務の状況の振り返りや、働き方の見直しを進めています。

今後は、各学校において特定の曜日についてノー残業デーの実施、校内会議の回数削減等、業務の見直しに向けた具体的な取組の導入について、検討を進めます。

【令和3年度】		【令和4年度】	【令和5年度】
計 画	○校務支援システムにより、小中学校全校で出退勤管理実施		
	○時間外勤務削減に向けた取組の検討（衛生懇談会の活用）	○取組を全小中学校で実施	
	○各学校で取組の設定		
	会議の持ち方の工夫、校務分掌の見直し、行事等の精選、教材の共有化等、数値目標設定等		

イ 部活動指導員の導入（中学校）【新規】

部活動については、スポーツ庁の部活動ガイドラインや神奈川県教育委員会の方針に基づき、「鎌倉市の部活動の在り方に関する方針」を策定し、活動時間や休養日の設定について取組を実施しました。

また、教員の負担軽減や生徒の発達を踏まえた適切な指導に向けて、部活動検討委員会を開催し、部活動指導者の導入等について継続して検討を行います。

【令和3年度】		【令和4年度】	【令和5年度】
計 画	○休養日設定の確認 ○部活動検討委員会実施		
	○負担軽減に向けた新たな取組（部活動指導員の導入等）検討		

ウ 校務支援システムの活用（小学校）【新規】

業務の効率化を図るため、小・中学校において一人一台の校務用パソコンの配備し、中学校では校務支援システムを導入・活用しています。小学校においても校務支援システムを拡充することによって様々な文書をデータ化するなど事務の効率化を図ります。

【令和3年度】		【令和4年度】	【令和5年度】
計 画	○小学校で校務支援システム運用開始 ○研修等実施	○小・中学校全校運用	

エ ICTの導入（デジタル教科書、AIドリル、クラウド等の活用）【新規】

ICTを活用することで、効率よく授業の準備や校務を行うことができます。教員への一人一台のiPadや各教室への大型モニターを配備するとともにGIGAスクールサポーターを配置します。また、クラウドサービスやAIドリル、指導者用デジタル教科書を順次導入します。

【令和3年度】		【令和4年度】	【令和5年度】
計 画	○教員に一人一台のiPad配付	各教室への大型モニター	GIGAスクールサポーター
	○クラウドサービスの活用		
	○AIドリル 全校導入		
	○指導者用デジタル教科書（推進校）	○指導者用デジタル教科書（全校導入）	

オ ICTスキル向上のための研修の実施【新規】

教職員の多忙化解消に向け、ICTを活用した校務や教育活動のスキルを身につけるためのGIGAスクール構想に対応した研修を実施し、教職員のICTスキルの向上を支援します。

	【令和3年度】	【令和4年度】	【令和5年度】
計	○市センター企画研修会・学校支援研修会の実施・自己研修のための研修コンテンツの提供		
画	○全小中学校を対象としたGIGAスクール校内研修会の実施		

カ 就学援助の現物給付化（小学校給食）【継続】

就学援助制度対象世帯への給食の現物給付について検討を行います。これにより、給食会計事務における対象世帯に関する収納及び喫食の確認や教育委員会への報告等の事務負担の軽減を図ります。

	【令和3年度】	【令和4年度】	【令和5年度】
計	○課題整理、制度設計 ○要領改正 ○保護者周知		
画		就学援助（小学校給食）の現物給付化	

キ 給食会計の公会計化（小学校）【継続】

学校給食費の徴収・管理等の業務は、教職員にとって時間的にも精神的にも負担の大きな業務です。公会計化により、教職員が授業改善のための時間や児童・生徒に向き合う時間を増やすことにつながります。

	【令和3年度】	【令和4年度】	【令和5年度】
計	○システム選定、導入、開発、テスト ○制度設計、体制整備 ○条例規則整備、マニュアル整備 ○保護者周知、口座情報登録		
画			

（２）人的配置による支援の取組【継続】

ア 小中一貫教育推進のための会計年度任用職員の配置拡充【継続】

小学校の学習指導要領で新たに教科として位置づけられた外国語（英語）について、その円滑な導入に向けて、中学校英語の教員免許を持つ会計年度任用職員を平成 30 年度は 4 名、令和元年度には 6 名を配置し、小学校において授業を実施してきました。引き続き、配置の拡充を図っていきます。

	【令和 3 年度】	【令和 4 年度】	【令和 5 年度】
計			
画	○各校の実態に応じた会計年度任用職員各職の配置、雇用管理		

イ 様々な人的支援の継続・配置【継続】

教育委員会ではこれまで、学級支援員や、学校介助員、スクールアシスタント、少人数指導の充実のための市費非常勤講師等の配置など、学校への人的支援を行ってきました。

学校における教育相談体制の構築のために、今後も、人的支援の継続に向けて検討していきます。

	【令和 3 年度】	【令和 4 年度】	【令和 5 年度】
計			
画	○教育相談員の担当校派遣日数を月 2 日・巡回訪問相談拡大（園・小学校・中学校） ○スクールソーシャルワーカーの拡充		

<参考：人的支援の状況>

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
学級介助員	37 人	40 人	62 人
学級支援員	11,000 時間	11,000 時間	(従来 42 人、学級支援員の統合 20 人)
スクールアシスタント	16 人	16 人	16 人
宿泊行事介助員	45 人	30 人	廃止
市費非常勤講師	10 人	9 人	11 人
心のふれあい相談員	3,360 時間	3,408 時間	※教育相談員と統合
教育相談員	小学校に月 1 日	小学校に月 1 日	小学校に月 2 日
スクールカウンセラー（県）	2,450 時間	2,450 時間	2,457 時間
スクールソーシャルワーカー(市)	504 時間	504 時間	756 時間
スクールソーシャルワーカー(県)	245 時間	245 時間	245 時間

(3) プランの推進のための取組

ア プラン推進体制の整備【継続】

計画の進捗状況を管理する中で、取組の成果を検証し改善を図るために、教育委員会に職場環境改善実行委員会を設置します。必要に応じて校長会等から学校現場の意見を得ながら本プランを推進します。

【令和3年度】		【令和4年度】	【令和5年度】
計 画	○半年ごとの計画の進捗状況管理		○3か年の効果検証・プラン見直し
	○年間の取組成果の検証		

イ 安全衛生体制の推進【継続】

教職員の安全及び健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成促進について市教育委員会と各小中学校が一体となって総括的に取り組むため、平成30年（2018年）11月、鎌倉市立学校教職員安全衛生管理規程を制定し、安全衛生協議会を設置しました。

各学校で取り組む衛生懇談会の報告や、学校訪問産業医による学校訪問の報告をもとに、現状の改善策について協議会で検討し、教職員が教育活動に専念できる環境づくりを進めます。

	【令和3年度】	【令和4年度】	【令和5年度】
計	○衛生懇談会実施（各学校）		
	○鎌倉市立学校教職員安全衛生協議会開催（年2回開催）		
画	○学校訪問産業医訪問相談実施		

ウ 地域・関係機関との協働【新規】

各学校の地域性を生かした鎌倉版コミュニティ・スクールを実践し、児童生徒、保護者、地域、教職員がわくわくするような学校づくりが可能となるコミュニティ・スクール、地域学校協働活動を実施・運営します。

学校と地域社会の連携が進み、学校運営に対しての「当事者意識」を分かち合うことで、地域とともに学校運営を行う環境づくりを推進します。

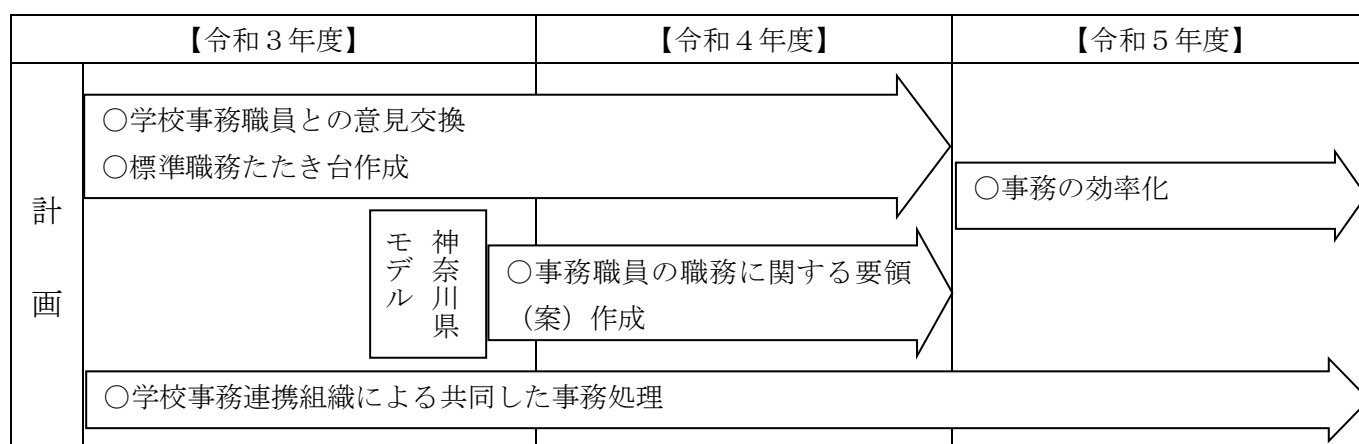
また、スクールラボファンドを活用し、外部機関等と協働して様々な人材を配置します。

【令和3年度】		【令和4年度】	【令和5年度】
計	○鎌倉版コミュニティ・スクール設置に向けた検討	○鎌倉版コミュニティ・スクールの運営	
		○1中学校ブロックの各校に地域学校協働活動推進員の配置	○3中学校ブロックの各校に地域学校協働活動推進員の配置
画	○スクールラボファンドを活用した事業開始		
		○事業の順次拡大	

エ 事務職員の学校運営への積極的な参画【継続】

事務職員の職務については、平成 29 年（2017 年）4 月 1 日に施行された学校教育法の改正により、「事務を処理する」から「事務をつかさどる」へ見直しが行われ、学校における唯一の総務・財務に通じる専門職として、今後ますます学校運営への参画が求められています。令和 2 年（2020 年）7 月に文部科学省は「事務職員の標準的な職務の明確化に係る学校管理規則参考例等」を示しました。それを受けて神奈川県はモデル案を作成する予定です。

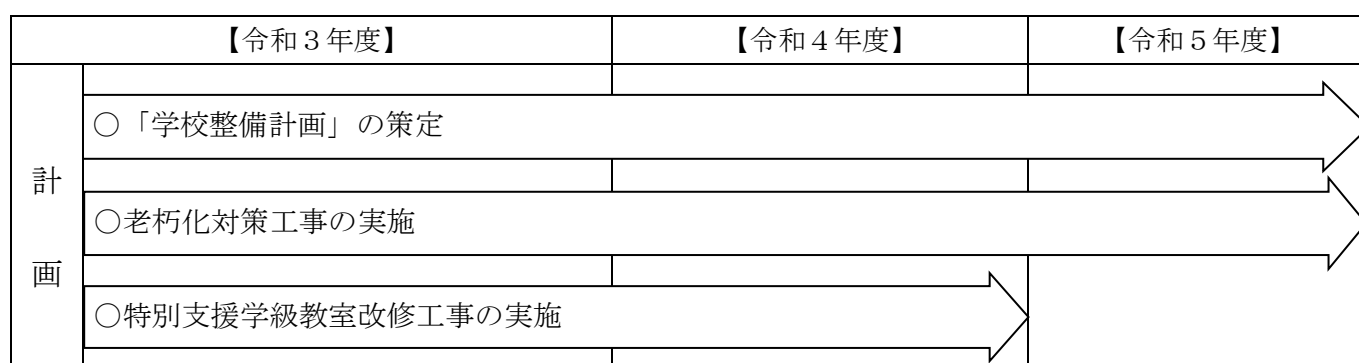
事務職員のさらなる活躍や事務処理の効率化を図るため、標準職務の要領制定及び関係規則等の整備を行うとともに、学校事務連携組織による共同した事務処理を積極的に進めていきます。



（４）快適に過ごせる環境整備に向けた取組

ア 学校施設の改築・長寿命化改修等【継続】

学校施設の老朽化が進んでおり、計画的な改修や建替えが必要となっていることから、平成 29 年度（2017 年度）から平成 30 年度（2018 年度）にかけて実施した学校施設の老朽化状況調査の結果等を踏まえて改築や長寿命化改修の方向性案を示す「学校整備計画」を策定します。また、子どもたちや教職員が安全に安心して学校生活を送ることができるよう、学校施設を適切に管理し、計画的な整備を進めます。



8 プラン策定後の安全衛生の取組について

学校における教職員の安全及び健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進することを目的として、鎌倉市立学校教職員安全衛生協議会を設置し、各学校の衛生懇談会の実施結果やプランの進捗についての報告をもとに、取組内容を検討しています。

【平成 30 年度（2018 年度）】

- 学校訪問相談試行（小学校 2 校、中学校 1 校実施）
- 鎌倉市立学校教職員安全衛生管理規程制定（11 月）
- 鎌倉市立学校教職員安全衛生協議会設置準備（委員選定等）

【令和元年度（2019 年度）】

- 各学校において衛生懇談会の実施（4 月～毎月実施、市教委に報告書提出）
- 鎌倉市立学校教職員安全衛生協議会開催（5 月、1 月）
- 学校訪問相談実施（小学校 3 校、中学校 1 校）

【令和 2 年度（2020 年度）】

- 教職員の勤務実態調査アンケート実施（6 月）
- 鎌倉市立学校教職員安全衛生協議会開催、アンケート結果の検証（7 月）
- 鎌倉市学校職場環境改善プラン見直し、プランⅡ策定の検討（7 月～）
- 学校訪問相談実施（小学校 2 校、中学校 1 校）

9 学校業務改善アドバイザー 妹尾昌俊氏から

いまの子どもたちに大切な力（資質・能力）って、どんなものでしょうか？

さまざまな答えがあっているのですが、世の中がめまぐるしく変化するなか（新型コロナの影響がまさにそうですね）、ものごとをしっかりと考える力や問題解決等に向けて主体的に行動できることの重要性は、一層高まっていると思います。

さて、学校の職場環境改善や働き方改革は、なにも残業時間が減ればそれでいい、というものではありません。趣旨は本プランの冒頭でも明記されていますが、少しわたしなりに言い換えれば、それは、先生たちがクリエイティブに楽しく考える時間を増やすためです。「こんな授業や行事ができるといいな」と企画したり、プライベートなことを充実させたりすることは、ひいては、教育活動にもプラスの影響があります。

学校には、やることがたくさんありますよね。でも、少し立ち止まって「これってなんのためかな」、「前例踏襲で続けることが目的化していたかもしれない」、「本当に子どもたちのためになっているだろうか」、「もっと別の方法があるんじゃないか」など考えて、学校内外で対話して、ちょっとしたことからでも行動していけると、ずいぶん変わっていきます。

子どもたちに思考力等を期待する前に、大人のわたしたちが同じ 21 世紀を生きる者として、学び続け、考える力を高めながら、問題解決等を進めていきましょう。

***** 学校業務改善アドバイザー 妹尾昌俊氏プロフィール *****

野村総合研究所を経て 2016 年から独立し、文科省での講演のほか全国各地の管理職研修、教職員研修などを手がけている。中央教育審議会「学校における働き方改革特別部会」委員、スポーツ庁「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン作成検討会議」委員などを歴任。

令和4年(2022年)4月1日現在

令和3年度 教育センター相談室 利用状況(年間)

表1 相談人数(複数回答 実人数は394人)

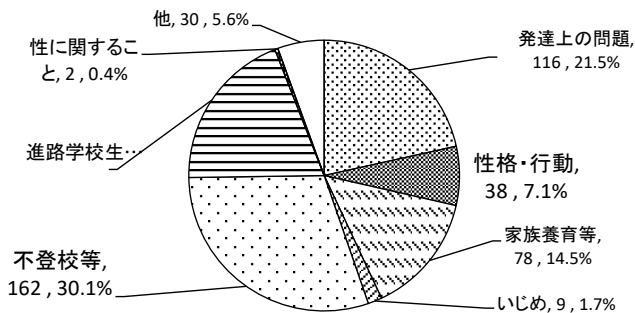
学齢等 内容	未就学	小学校	中学校	高校	有職者	無職者	他	合計
発達上の問題	2	93	19	1			1	116
性格・行動		27	7	4				38
家族養育等		49	21	8				78
いじめ		8	1					9
不登校等	1	80	68	11			2	162
進路学校生活等	3	59	31	9		1	1	104
性に関すること		1		1				2
他	2	10	9	3		3	3	30
合 計	8	327	156	37		4	7	539

相談件数(複数回答 実件数は延べ2606件)

学齢等 内容	未就学	小学校	中学校	高校	有職者	無職者	他	合計
発達上の問題	2	482	157	1		9		651
性格・行動		95	49	16				160
家族養育等		418	187	115	5	1		726
いじめ		59	9					68
不登校等	1	720	686	63		1	1	1,472
進路学校生活等	4	304	179	51	2	21		561
性に関すること		3		1				4
他	2	38	27	11	1	9	8	96
合 計	9	2,119	1,294	258	8	41	9	3,738

グラフ1

相談人数(内容別 複数回答)



相談件数(内容別 複数回答)

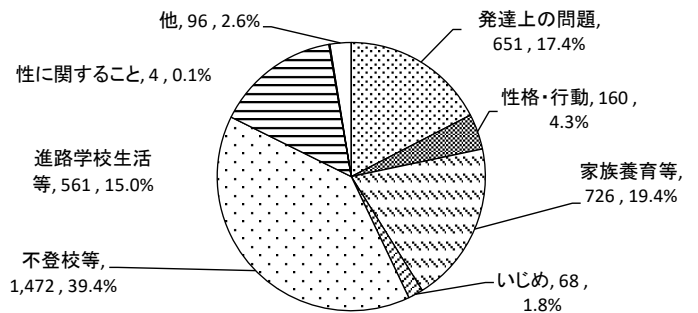


表2 内容別相談人数 年度別状況(複数回答)

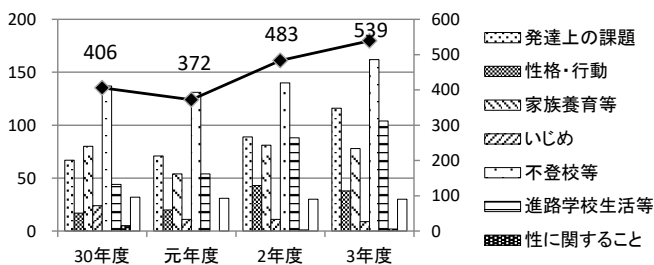
年度 内容	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
発達上の課題	67	71	89	116
性格・行動	17	20	43	38
家族養育等	80	54	81	78
いじめ	24	11	11	9
不登校等	137	131	140	162
進路学校生活等	44	54	88	104
性に関すること	5		1	2
他	32	31	30	30
合 計	406	372	483	539

内容別相談件数 年度別状況(複数回答)

年度 内容	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
発達上の課題	350	302	564	651
性格・行動	75	104	173	160
家族養育等	390	226	461	726
いじめ	35	28	33	68
不登校等	1,066	841	1,091	1,472
進路学校生活等	163	231	401	561
性に関すること	9		5	4
他	180	81	58	96
合 計	2,268	1,813	2,786	3,738

グラフ2

内容別相談人数 年度別状況



内容別相談件数 年度別状況

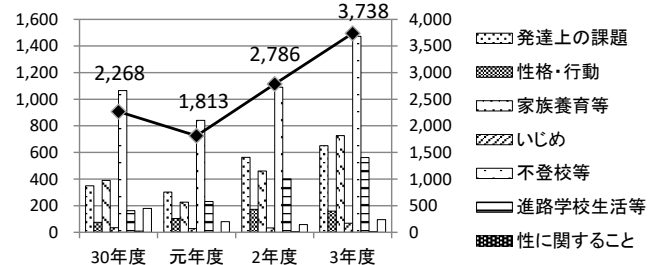


表3 いじめ相談ダイヤル、webでのいじめ相談、子ども相談SOSフォーム利用状況

いじめ相談ダイヤル	21件	小学生18件	中学生3件
webでのいじめ相談	1件	小学生 1件	
子ども相談SOS相談フォーム	15件	小学生 3件	中学生12件

教育支援教室ひだまり利用状況

NO.9相談室事業

*登録者数 令和4年3月31日現在 小学生8名・中学生17名 合計 25名

内容		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開室日数		19	18	22	12		20	21	20	18	15	18	18	201
人 数	小学生	2	3	6	4		8	9	9	9	10	10	9	79
	中学生	6	11	13	12		12	15	16	19	18	20	21	163
	計	8	14	19	16		20	24	25	28	28	30	30	242
延べ 通室日数	小学生	19	21	38	23		54	59	64	49	48	58	75	508
	中学生	32	40	79	51		85	95	107	111	103	125	116	944
	計	51	61	117	74		139	154	171	160	151	183	191	1452
一日当たり 平均通室人数	小学生	1.00	1.17	1.73	1.92		2.70	2.81	3.20	2.72	3.20	3.22	4.17	2.53
	中学生	1.68	2.22	3.59	4.25		4.25	4.52	5.35	6.17	6.87	6.94	6.44	4.70
	計	2.68	3.39	5.32	6.17		6.95	7.33	8.55	8.89	10.07	10.17	10.61	7.22

* 上記の表には体験者を含む

年度	登録数			延べ通室日数			卒業生進路	
	小	中	計 (うち学校 復帰数)	小	中	計	中3	進学先
H28	1	8	9(1)	40	753	793	5	通信制サポート校4人、特別支援学校1人
H29	5	12	17(1)	220	633	853	6	公立工業科1人、公立定時制2人、私立高校2人 通信制サポート校1人
H30	5	20	25(1)	129	1,092	1,221	8	公立校福祉科1人、公立定時制3人、通信制サポート校4人
R1	3	19	22(2)	124	1,194	1,918	9	通信制サポート校6人、私立高1人、県立通信制1人、県立定時制1人
R2	6	12	18(1)	310	621	931	7	公立全日制普通科クリエイティブスクール1人(釜利谷)、公立定時制3人(明朋)、サポート校3人(KTC、湘南国際アカデミー、鹿島学園)
R3	8	17	25(2)	508	944	1452	4	クラーク1人、シーズアップ高等部(seed学院)2人、KTC1人

令和3年度スクールカウンセラー相談実績

1 相談件数

内容分類	① 不登校	② いじめ	③ 暴力	④ 児童 虐待	⑤ 友人・ 異性 関係	⑥ 貧困	⑦ 非行	⑧ 家庭環 境(④⑥ を除く)	⑨ 教職員 との 関係	⑩ 心身の 健康・ 保健	⑪ 学業・ 進路	⑫ 発達	⑬ コロナウ イルスに 起因する 相談	⑭ その他	合計
学年等															
小学校	1年	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	3年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10
	4年	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
	5年	6	1	0	0	0	0	8	0	0	0	7	0	0	22
	6年	27	0	0	0	4	0	0	0	0	0	11	0	5	47
	保護 教職員	65	6	0	0	6	0	2	3	13	5	40	0	17	157
中学校	1年	93	2	0	0	50	0	12	1	51	5	17	0	20	251
	2年	100	0	0	0	14	0	13	0	25	1	0	0	9	162
	3年	59	0	0	2	2	0	5	0	40	7	11	0	0	126
	保護 教職員	201	0	0	0	34	0	57	2	90	21	61	1	52	521
	合計	263	2	0	3	32	0	87	1	143	38	65	1	74	710
合計	886	15	0	5	156	0	3	199	18	378	97	257	2	236	2252

2 児童・生徒の相談後の状況(人数) ※SSWや外部の専門機関との連携による対応も含む

人数\項目	① 不登校	② いじめ	③ 暴力	④ 児童 虐待	⑤ 友人・ 異性 関係	⑥ 貧困	⑦ 非行	⑧ 家庭環 境(④⑥ を除く)	⑨ 教職員 との 関係	⑩ 心身の 健康・ 保健	⑪ 学業・ 進路	⑫ 発達	⑬ コロ ナウ イル スに 起因 す	⑭ その他
ほぼ改善	12	1	0	2	9	0	0	9	5	11	4	11	0	11
やや改善	24	1	0	0	8	0	1	9	1	22	9	21	1	15
変化なし	30	0	0	0	1	0	0	8	0	8	2	12	0	6
中断	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
合計	70	2	0	2	18	0	1	26	6	42	15	44	1	34

3 家庭訪問実施回数

各登校児童・生徒への対応として、家庭訪問を実施した回数について記載

	対象生 徒数	回数
小学校	0	0
中学校	0	0
合 計	0人	0回

4 研修会実施実績

講師として講話・ワークショップ等を実施した実績を記載

校種\項目	実施回数						延べ参 加人数	
	対象	教員	保護者	児童・生徒	合計			
		内※1		内※2				
小学校		0	0	0	0	0回	0人	
中学校		2	3	1	0	3回	96人	
合 計		2回	3回	1回	0回	0回	3回	96人

※1 教員のカウンセリング能力向上のための校内研修

※2 生徒の困難・ストレスへの対処等の教育プログラム

5 ケース会議等への参加実績

生徒指導・教育相談に関する会議等への参加実績を記載

	回数
小学校	14回
中学校	100回
合 計	114回

6 校内のスクールカウンセラー担当者

以下の項目から3つまで選択して番号を記載 ※人数で記載

- 1 教育相談コーディネーター
- 2 養護教諭
- 3 生徒指導担当
- 4 管理職
- 5 その他(こちらを選んだら、下に役職名を記入してください。)

7	人
8	人
11	人
8	人

令和3年度 教育相談員 小学校訪問時の活動状況

令和4年4月1日

	① 発達の 課題	② 性格 行動	③ 家族 関係 養育	④ 家庭 内暴 力	⑤ いじ め	⑥ 不登 校	⑦ ひき こも り	⑧ 学業 進路 進学	⑨ a 友 人関 係	⑨ b 教 員と の 関 係	⑨ c 学 校生 活	⑩ 性	⑪ 対人 関係	⑫ ぐ犯 犯罪	⑬ その 他	合計
児童	184	84	43	1	3	90	2	64	40	3	221	6	11	0	83	835
保護者	201	49	105	1	10	153	4	63	56	5	100	1	4	0	18	770
教職員	932	341	459	6	36	501	6	312	147	39	476	4	18	0	136	3,413
その他	11	1	5	0	0	14	0	3	1	0	6	0	0	0	2	43
合計	1,328	475	612	8	49	758	12	442	244	47	803	11	33	0	239	5,061

〔相談、情報交換、授業見学について、カウントの仕方〕

- ① 情報交換(提供)は、気になる子として数人分一度にあれば、教職員/その他に1カウント。対応を依頼された子2人として、情報提供があれば児童/内容別に2カウント。
- ② 授業見学は、1クラス全体をみた場合、児童/その他に1カウント、クラスの中で対応を依頼された子ども2人を中心に観た場合、児童/内容別に2カウント
- ③ ケース会議は、教職員/その他に1カウント

令和3年度 心理検査(WISC-IV)実施状況

実施件数 18件(小学生 16件 中学生 2件)

- ・検査を実施後、保護者(希望があれば本人)にフィードバックし、その後学校に結果をフィードバックしている。
- ・保護者からの依頼があれば、医療機関等に検査結果を提供している。
- ・検査をするケースでは、検査の結果をお伝えした後に相談が継続するケースが少ないことが課題。検査後の継続的なかわり続けることで子どもや学校を支援していきたい。



広報 かまくら

学校での学習になじめず、学校に通うのがつらいと感じている子どもたちが

「自分らしい学び方」に出会う

へーんしん！
ウルトラ
かまくら **ULTLA** プログラム

たくさんの
温かい目で
見守る！



自分を 知る

科学的アセスメントの実施
と丁寧なフィードバック
で、子どもが自分のユニークな
学びの特性に気付くきっかけをつくり
ます。



鎌倉らしい地域の
資源・場を生かす！



学校や
地域も
応援！



自分らしい 学び方を 試す



「正解」も「時間制限」もなし！ 鎌倉の豊かな森や海をテーマに、自分らしい学び方を自由に試しながら学んでいきます。疲れたら休んでも大丈夫。自分のペースで。



ユニークな大人たちが
ナビゲート！



学びの成果を 発揮する

プログラムで学んだことを作品や音、言葉、絵、身体など自分に合った方法で表現。学ぶ喜びや意欲につながっていきます。



「ULTLA」は Uniqueness Liberation Through Learning optimization and Assessment（学びの最適化と評価による個性の開放）の略です。

自分らしい学び方に 気付く場を

教育センター ☎ 61-3809



鎌倉市は持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取り組みを推進しています。

学校では、子どもたちの多様な能力や特性、興味などを引き出す「個別最適化学び」の実現に日々挑戦しています。一方で、学びたい、何かやってみたいという気持ちはあるけれど、学校での学習になじめず、不登校や、休みがちになるなど、学校に通うのがつらいと感じている子どももいます。

そこで、市では、鎌倉ならではの資源・場を活用して、子どもたち一人一人の特性に応じた豊かな学びを提供する「かまくらULTLAプログラム」を立ち上げ、昨年2つのプログラムを実施しました。ここでは、漁師や僧侶、シェフなど普段学校の教室にはいない人々の支援を受けながら子どもたちが自分らしい学び方に気付く、力を発揮することを通して、好奇心や情熱をカタチにすることに喜びを感じ、自信と意欲をもって自立していく基礎を育むことを目指しています。



自分の特性を知り、鎌倉という地域の特性や 資源を生かした学習で、自分らしい学びを進める

森のプログラム at 浄智寺

リズムをテーマにした身体活動、竹を使った楽器作りと演奏などを通じて、目には見えない身体・心・自然の変化を探究する

1日目



「学びのポートフォリオ」で自分を知ることから、プログラムがスタートしました。



腹が立ったり据わったりするのはなぜか、座禅を通して腹と心の不思議な関係を探りました。



身体一つでどれだけ多くの動きが創れるか、忍者やネコなどに变身して体感しました。



さまざまな大きさの太鼓で、自分にフィットするリズムと音を見つけていきました。

3日目



開催中の「森の映画祭」や北鎌倉ゆかりの監督・小津安二郎について説明を受けた後、民族楽器を描いた映画「大海原のソングライン」を鑑賞しました。



2日目に制作した竹楽器を使って自分の音を出し、発表し合いました。



自作のお面を付け、竹楽器や太鼓で「森の映画祭」の音をみんなで奏でました。

2日目



竹の種類・性質・構造などを、実際に生えている竹を観察しながら学びました。



竹がどんなものに変身しているか、広い境内で探してみました。



「森の映画祭」を盛り上げようと、創意工夫して竹で楽器を制作しました。



竹がさまざまな種類の楽器に生まれ変わりました。

参加者・保護者の声

- 自分の学び方のクセを知って、「自分の取り扱い方」が分かった。(参加者)
- 周りの友達と活動して仲良くなったし、発見もあった。楽しくて仕方がない。(参加者)
- 意欲が高まってきたようで、学校に行くようになった。(保護者)
- 朝から夕方まで、久しぶりに何かの活動ができた。楽しかったようだ。(保護者)

ULTLAナビゲーターの思い

撮影時のみマスクを外しています



朝比奈恵温さん
(浄智寺住職)

ここに来て気持ちが安らぐ、というような、言葉を超えた場の力や数百年先の先人の思いを感じて、何かにつながれば嬉しく思います。



福本理恵さん
(株式会社SPACE代表)

自分をいろいろな環境に置いて、可能性を広げてほしいです。試行錯誤しながら、マイペースに自分の道をひらいてほしい、と願っています。



岡 博大さん
(NPO法人湘南遊映坐理事長)

私も不登校の経験があります。その経験は自分の視野を広げて人生を豊かにしてくれました。焦らずプラスに捉えて、いろいろな学びを知ってほしいです。



賀川治樹さん
(WCP公認心理療法師)

音楽を奏でる時のように、自分のリズムを大切に自分らしさを開花させながら、人とダイレクトにつながり社会と調和するきっかけになれば、と思っています。

参加者は、プログラムの最初に「学びのポートフォリオ(分析シート)」を使って、自分の中にどんな力が眠っているか、思考や好奇心のスタイルにどんな傾向があるか、などを知ることから始めます。その上で、自分の特性を生かした学び方を工夫して、さまざまな分野の専門家のULTLAナビゲーターと共に、自分らしい学習を進めていきます。

学びのポートフォリオ(株式会社SPACE提供)▶



ご覧ください！

プログラム当日の様子は、鎌倉市教育委員会noteでも公開しています！



教育センター ☎61-3809

海のプログラム at カヤック(ぼくらの会議棟) 由比ヶ浜海岸

専門家によるワークショップ、地引網体験や地元漁師の話などを通して、海や海藻・魚などの生き物の多様性や命を感じ、「生きる」を考える

1日目



「学びのポートフォリオ」で自分を知ることから、プログラムがスタートしました。



講座「十魚十色! ギョウとする魚たち」の映像は印象的だったようです。



実際の魚や標本に触れながら、世界に生息する多種多様な魚の特性を学びました。



多種にわたる海藻の姿や味、食感を実際に比べて分析し、海藻の正体に迫りました。



さまざまな食材で海藻の美しさを引き立てる盛り付けデザイン、サラダに合うドレッシングを考えて調理し、名前を付けました。

3日目



思いの詰まった、世界で唯一のシャリ型ができました。



シャリ型に込めた思いや設計図を描いて、実際に寿司を作りました。



シャリ型を使って実演しながら、家族や参加者にプレゼンをしました。

2日目



網の仕掛け方、引く力加減などを漁師さんから教わりながら、地引網を体験しました。



まかない丼を食べ、命の循環を感じながら、漁師さんの海や仕事への思いを聞きました。



魚たちから命のボタンを受け取り、魚をおいしく食べるため、寿司のシャリ型をデザインしました。



デジタル技術を駆使し、3Dプリンタを使ってシャリ型を作る作業に没頭しました。

参加者・保護者の声

- 同世代の子と話したり網を引いたりできて、楽しかった。(参加者)
- 疑問を問いただしたら「こうじゃない?」と応えてくれる人が何人もいて楽しかった。(参加者)
- ありのままで学べることで子どもに自信がつき、挑戦する意欲が出てきた。(保護者)
- 外に出て大人や子どもと関わることができただけでも、大変ありがたく思う。(保護者)

ULTLAナビゲーターの思い

撮影時のみマスクを外しています



加藤彰一さん
(漁師)

魚はよく取れる時と、全然取れない時があります。それと同じで、若い頃動けた会社でも厳しい時がありました。でも、ずっと続くわけじゃない、嬉しい時も来ます。いい時も来るよ、と子どもたちに言いたいです。



渡辺ゆかさん
(ファブラボ鎌倉代表)

私たちは、3Dプリンタなどのテクノロジーを使ったものづくりを得意としています。子どもたちが、自分の感覚を大切に、「つくる」を通して自分らしく前に進む力を感じられたら嬉しいです。



石坂秀威さん
(シェフ)

普段あまりなじみのない海藻を選んで調理や食べ方を紹介しました。子どもたちは柔軟に受け止め、考えや感想を率直に声に出し、選ぶ食材にも好き嫌いや個性が出て面白かったです。今後も食育に関わりたいですね。

どなたでもご相談ください

教育センター相談室

☎24-3386・3495

子どもに優しさとしなやかさを育むには、さまざまな経験や人の温かさに触れることが大切です。また、思い通りにならない経験を力に変えるには、多くの支えが必要です。自分の中で悩みが抱えきれなくなり、一日の始まりがつかなくなってしまいう前に、あなたのお話を聞かせてください。

教育相談員が、小・中学校の登校しづり・不登校など、保護者や本人からの学校生活に関する相談を電話で受けます。
月～金曜日の平日 9:00～17:00

情報サイト「キミイロ」

県と民間団体の協働による情報サイトです。不登校支援などについて掲載されています。



教育支援教室「ひだまり」

不登校の児童・生徒が、在籍校に籍を置きながら通室しています。学習支援や小集団活動などを通して、学校生活や社会生活に適応できるよう支援しています。ものづくり、スポーツ交流会、自然体験教室なども行っています。利用は、まず在籍校に相談を。その後、教育センター相談室で一緒に通室を検討します。

ULTLAは自分だけのユニークな学び方を知り、「らしさ」を発揮する方法を学ぶ場所

大人になった時学ぶ内容は、選べないことが多いです。例えば、接客が好きでカフェを開いても、会計を学ばないと店の経営はできないでしょう。けれども、学ぶ内容が選べなくても、選べることもあります。それは、学びの仕方です。

どうやって学べば自分らしく楽しく、快適に学ぶことができるか。ULTLAで得たヒントを、ぜひ普段の居場所でも試して、自分を発揮してみたいですね！

皆さんの中には、学校に行きづらいと感じる自分の特性が嫌だなと思ってる人がいるかもしれないですね。でもそれは、自分が他の人とは違う何かを持っている、ということなんです。自分の持つ個性・特性やユニークなところ！それこそが、大人になった時に求められるものなのです。この特性は自分だけが持っている宝物だ、と考えるのはいいのです。

皆さんは、どんなときに褒められますか。「他の人と同じこと」ができたときに褒められることが多くありませんか。でもね、不思議なことに、皆さんが大人になると、今度は「あなたにしかできないことは、何ですか」と聞かれるようになります。



「Society 5.0」の時代を
しなやかに泳ぐ子どもたちを育む
鎌倉市教育委員会

番外編

岩岡教育長から子どもたちへ
(ULTLAで寄せたことば)

調査研究研修事業

(1) 研究事業

ア 教育研究発表会

期 日	内 容	参加数
8月6日(金) 深沢学習センター ホール	○ 研究発表（本発表1、中間発表3）・講義 横浜国立大学 教育学部 教授 木村 昌彦 氏	41名 (小25中13園3) <u>各校1名</u>

イ 幼児教育研究協議会

期 日	内 容 / 実践報告、協議	参加数
1月26日(水) 深沢学習センター オンライン開催	研究テーマに関する実践報告及び研究協議（幼・こ・保・小連携） テーマ：「育ち、つながり、分かち合う～いきいきと活動し学ぶ姿の共有～」 実践報告 小1・幼1・保1	90名 (幼24こ5保26小35) <u>小各校2名</u>

ウ 幼・こ・保・小交流事業担当者会

期 日	場 所	内 容	参加数
5月26日(水)	玉縄学習センター 分室 第3集会室	今年度の幼・こ・保・小交流事業について	40名 (小17 園23) <u>小各校1名</u>

エ 調査研究年次計画

調査研究会	R1 年度 (2019 年度)	R2 年度 (2020 年度)	R3 年度 (2021 年度)	R4 年度 (2022 年度)	研究内容
教育資料研究会		←→	←→		小学校社会科学習資料「かまくら」の改訂
教育課題研究会		←→	←→	←→	「かまくらっ子の意識と実態調査」11集の活用
情報教育研究会		←→	←→	←→	GIGAスクールにおけるICT活用
幼児教育研究会	←→	←→	←→	←→	幼・こ・保・小の連携

※ ←→ (太線) については令和3年度研究

オ 調査研究会・教育研究員 ※(1)(2)(3)についてはR2から継続 (4)についてはR3新規

調査研究会	研 究 テ ー マ (内容要旨)
(1) 教育資料研究会 (2 / 2)	「小学校社会科学習資料『かまくら』の改訂」 小学校社会科学習資料『かまくら』のこれまでの内容を見直すとともに新たな時代に対応した内容の追加を検討する。
(教育研究員 小学校4名 中学校1名 計5名) 上山 慎太郎(御成小) 宮島 雅也(腰越小) 高坂 桂子(玉縄小) 川坂 愛(富士塚小) 村田 陽祐(大船中) 【指導助言者】 鎌倉市教養センター 大橋 正一郎 氏	
(2) 教育課題研究会 (2 / 2)	「『かまくらっ子の意識と実態調査研究』第11集の活用」 「かまくらっ子の意識と実態調査」第11集の調査資料で挙げられた課題について、改善に向けた取組を研究し、実践を行う。
(教育研究員 小学校3名 中学校2名 計5名) 中村 千慧(稲村ヶ崎小) 小暮 直樹(山崎小) 横山 直人(西鎌倉小) 小島 雄樹(玉縄中) 山田 香菜子(腰越中) 【指導助言者】 日本ウェルネススポーツ大学 教授 近藤 卓 氏	
(3) 情報教育研究会 (2 / 2)	「GIGAスクール構想におけるICTの活用について」 タブレット一人一台体制におけるICTの活用の仕方について研究し、指導力向上にいかす。
(教育研究員 小学校3名 中学校2名 計5名) 吉田 麻梨奈(深沢小) 佐々木 渉(大船小) 大村 智秋(今泉小) 齋藤 雅行(第一中) 鈴野 江里(手広中) 【指導助言者】 さとえ学園小学校 教諭 山中 昭岳 氏	
(4) 幼児教育研究会 (1 / 2)	「遊びから学びへ～幼・こ・保・小の学びの連続性を探る～」 小一プロブレム解消に向けて、園での経験を小学校の学習へどう接続していくのか円滑な接続に向けての手立てを探る。
(教育研究員 小学校2名 公立保育園1名 私立保育園1名 認定こども園1名 計5名) 大橋 真音(第一小) 岡田 ゆい(第二小) 樋口 一恵(清心保育園) 吉崎 晴美(大船保育園) 佐野 肖美(アワーキッズ鎌倉) 【指導助言者】 鎌倉女子大学 教授 小泉 裕子 氏	

*各研究会の検証授業のうち何回かを公開授業と位置づけ参加希望をとる。研究授業後、研究協議を行う。

(2) 研修事業

ア 実践的な指導力向上のための研修

【市教育センター企画研修会】

研修会名等	回	期日・会場	テーマ・講師予定等	参加者数
危機管理対応能力 育成研修会	1	7月27日(火) PM オンライン開催	「食物アレルギー対応について」 湘南鎌倉総合病院 小児科専門医・アレルギー専門医 三宅 隆太 氏	31名 (小17中8他6) <u>各校1名</u>
食育研修会	1	7月30日(金) PM 坂ノ下漁港	「鎌倉の漁業の仕組みを学ぶ」 鎌倉漁業協同組合長 木村 和俊 氏	20名 (小17中2他1)
人権教育研修会	1	7月27日(火) AM オンライン開催	「多様な性ってなんだろう?～すべての子どもがすごしやすい学校とは～」 認定特定非営利活動法人 ReBit	34名 (小21中10他3) <u>各校1名</u>
コンピュータ研修 会	1	8月20日(金) PM オンライン開催	「学校教育と情報モラル～理論とワークショップをととした教材づくり～」 日本教育情報化振興協会 柏市教育委員会教育研究専門アドバイザー 西田 光昭 氏	29名 (小18中10) <u>各校1名</u>
	2	8月23日(月) PM 深沢学習センターホール	「iPadを活用した授業づくり～子どもが使用する際のルールについて～」 さとえ学園 山中 昭岳 氏	53名 (小35中18) 管理職(教頭) ICT教育推進担当者
	3	1月6日(木) PM 鎌倉生涯学習センター ホール	「Padを活用した授業づくり～子どもたちの未来のためにできることを考える～」 さとえ学園 山中 昭岳 氏	49名 (小32中17) 管理職(教頭) ICT教育推進担当者
鎌倉郷土研究研修 会	1	7月29日(木) PM 鎌倉能舞台	「受け継がれる能の魅力～鑑賞及び体験をととした伝統と文化の理解～」 鎌倉能舞台 中森 貫太 氏	19名 (小19)
	2	7月30日(金) AM 浄智寺	「鎌倉の寺社・文化財の歴史と文化を知る～浄智寺見学と講話、体験活動を通して～」 浄智寺住職 朝比奈 恵温 氏	19名 (小19他1)
	3	8月5日(木) AM 玉縄方面	「戦国時代の鎌倉と民衆のくらし～玉縄城址に残る遺構群を訪ねて～」 NPO法人鎌倉考古学研究所(考古学者) 玉林 美男 氏	15名 (小13中1他1)
教師力向上研修会	1	7月26日(月) AM オンライン開催	「子どもが主体的に考え、学び合う道徳科の授業づくり」 畿央大学 教授 島 恒生 氏	19名 (小13中1他1)
	2	7月28日(水) PM 鎌倉生涯学習センター第5集会室	「心を動かす話し方・表現力」 (株) リファイン代表取締役社長 下平 久美子 氏	18名 (小12中3他3)
	3	8月18日(水) PM オンライン開催	「授業づくり&学級経営キホンのキ」「授業づくり&学級経営～『わたしの場合』を交流しよう～」 湘南三浦教育事務所教育指導員・鎌倉市教育指導員	9名 (小7中2)
	4	3月8日(火) PM オンライン開催	「知りたい! インクルーシブ教育・合理的配慮について」 明星大学 教育学部 教授 星山 麻木 氏	38名 (中6他32)
幼・こ・保・小連携 研修会	1	11月17日(水) PM 深沢学習センターホール	(録画視聴による小学校参観及び協議会) ※植木小学校	29名 (幼7中2保17小17他3)
	2	(第1、2回合同開催)	(録画視聴による保育園参観及び協議会) ※佐助保育園	<u>小各校1名</u>
幼児教育研修会	1	8月27日(金) PM オンライン開催	「子どもの心を育てるわらべうた遊び～0才の愛着関係から幼児期以降の協同性・道徳性の育ち～」 わらべ歌講師 小林 由美子 氏	31名 (小19中1他11) <u>小各校1名</u>

事故・不祥事防止 研修会	1	8月18日（水）AM オンライン開催	「信頼される教職員を目指して～日常的な取組からの不祥事防止～」 神奈川県教育委員会行政部行政課 行政グループ	40名 (小28中9他3) 各校1名
教育課題研修会	1	8月23日（月）AM オンライン開催	「特別な支援を必要とする子どもへの手立て（愛着障害）」 聖学院大学心理福祉学部 教授 大橋 良枝 氏	55名 (小35中10他10) 各校1名
	2	8月30日（月）PM オンライン開催	「子どもたちの自尊感情をどう理解し育むか」 日本ウェルネススポーツ大学 教授 近藤 卓 氏	39名 (小22中10他7) 各校1名

* 全研修会参加対象：市立小・中学校教職員・市内幼稚園教諭・認定こども園保育教諭・保育園保育士・子どもの家指導員等希望者

* 各校1名以上参加の悉皆研修については備考欄に記載

【学校支援研修会】※各校1回実施

研修会名等	回	期日・会場	テーマ・講師等	参加者数
授業づくり研修会	1	6月2日（水） 稲村ヶ崎小学校	「新学習指導要領を踏まえた国語の授業での評価の在り方」 山梨大学大学院 総合研究部教育学域 准教授 茅野 政徳 氏	24名 (小23中1)
	2	6月3日（木） 関谷小学校	「表現することを楽しむ子を目指して」 山梨大学大学院 総合研究部教育学域 准教授 茅野 政徳 氏	28名 (小26中1他1)
	3	9月24日（金） 腰越小学校	「担任だからこそできる外国語の授業づくり」 東京学芸大学人文社会科学系 教授 粕谷 恭子 氏	24名 (小24)
教育課程研修会	1	5月28日（金） 山崎小学校	「深い学びのある授業をめざして」 早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 小林 宏己 氏	22名 (小22)
	2	6月4日（金） 玉縄小学校	「ユニバーサルデザインの視点を生かした学習指導法を考える」 玉川大学 教師教育リサーチセンター教職サポートルーム 元客員教授 林 紋子 氏	22名 (小20中1他1)
	3	6月22日（火） 玉縄中学校	「『主体的・対話的で深い学び』を実現するための問題発見・解決能力の育成～『気づき』を大切に授業づくり『たちつと』～」 玉川大学 教師教育リサーチセンター教職サポートルーム 元客員教授 林 紋子 氏	27名 (中27)
	4	6月30日（水） 御成中学校	「『主体的・対話的で深い学び』の授業づくりについて」 早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 小林 宏己 氏	28名 (中28)
	5	7月21日（水） 今泉小学校	「自らすすんで学ぶ子をめざして～目的意識をもてる授業づくり～」 早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 小林 宏己 氏	23名 (小23)
	6	8月20日（金） 御成小学校	「小・中のつながりを意識したカリキュラムの構築～総合的な学習の時間の実践例から～」 早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 小林 宏己 氏	50名 (小36中14)
	7	8月30日（月） 深沢中学校	「これからの学習評価」 横浜国立大学 名誉教授 高木 展郎 氏	32名 (中32)
	8	10月26日（火） 第一中学校	「新学習指導要領に求められる『主体的に学習に取り組む態度』の育成～生徒の学習意欲を高める評価、評定のありかた～」 横浜国立大学 名誉教授 高木 展郎 氏	20名 (小1中19)
	9	10月1日（金） 岩瀬中学校	「主体的に学習に取り組む態度の具体的な評価方法について」 横浜国立大学教育学部附属鎌倉小中学校 校長 池田 敏和 氏	33名 (小1中29他33)
	10	2月28日（月） 大船中学校	「主体的に学習に取り組む態度の評価について」 横浜国立大学 名誉教授 高木 展郎 氏	34名 (小2中31他1)
児童生徒理解研修会	1	5月19日（水） 第二中学校	「『経験』する指導と『体験』する指導の違いについて」 大草心理臨床・教育相談室「おーぷん・ラボ」主宰 大草 正信 氏	17名 (中17)
	2	6月17日（木） 植木小学校	「みんなが学びやすい学校づくりを目指して～発達性ディスレクシアの若者たちの声を聞いて一緒に考えよう～」 NPO法人発達サポート バオバブの樹 沖村 可奈子 氏	21名 (小18中3)
	3	6月23日（水） 富士塚小学校	「通常級における発達障害のある児童の支援や諸問題への対応について」 明星大学教育学部 教授 星山 麻木 氏	26名 (小23中3)

	4	7月15日(木) 七里ヶ浜小学校	「一人ひとりにあった学び ～学校・学級での『合理的配慮』～」 LITALICO研究所 所長 野口 晃菜 氏	20名 (小16中3他1)
教科等研修会	1	5月26日(水) 小坂小学校	「外国語+α 知的好奇心をよびおこす授業のつくり方」 小学校テーマ別英語教育研究会 (ESTEEM) 主宰 町田 淳子 氏	31名 (小29中1他1)
	2	6月17日(木) 西鎌倉小学校	「伝えあい深め合う子どもを目指して～自分事としてとらえる国語科の授業づくり」 早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 小林 宏己 氏	29名 (小28中1)
	3	6月18日(金) 第一小学校	「新学習指導要領における算数科の指導観及び評価のあり方」 文部科学省教科調査官 笹井 健一 氏	27名 (小26中1)
教科等研修会	4	10月18日(月) 腰越中学校	「ICTを生かした授業づくり」 放送大学 教授 中川一史 氏	18名 (中18)
	5	12月22日(水) 深沢小学校	新学習指導要領に基づいた国語科(説明文)の授業づくりについて」 東京学芸大学 人文社会科学系日本語・日本文学研究講座 教授 中村 和弘 氏	28名 (小28)
	6	1月6日(木) 大船小学校	「iPad×学び＝???」 さとえ学園 山中 昭岳 氏	28名 (小28)
教育課題研修会	1	6月14日(月) 第二小学校	「学校全体で取り組むポジティブな行動支援」 LITALICO研究所 所長 野口 晃菜 氏	22名 (小20他2)
	2	7月16日(金) 手広中学校	「働き方を見つめなおし、確実に動き出す ～事例等をヒントにしたワークショップ～」 学校業務改善アドバイザー 妹尾 昌俊 氏	28名 (小1中27)

*全研修会参加対象：市立小・中学校教職員・市内幼稚園教諭・認定こども園保育教諭・保育園保育士・子どもの家指導員等希望者

【GIGA スクール校内研修会】※各校 1 回実施 3 年計画の 2 年目

	学校名	期日	テーマ等	参加者数
1	第一小学校	12 月 3 日（月）	No.21『みんなでいっしょにブレインストーミング』	23名
2	第二小学校	2 月 21 日（月）	No. 1『モラルを考えよう』	22名
3	御成小学校	机上研修	『Google Classroomの使い方【基本編】』	26名
4	稲村ヶ崎小学校	2 月 10 日（木）	No.1『ペーパーレス化に向けて～会議資料へのメモの書き込み方など～』	15名
5	七里ガ浜小学校	5 月 21 日（金）	No.22『 みんなの意見をすぐに集約しよう』	21名
6	腰越小学校	机上研修	『Google Classroomの使い方【基本編】』	20名
7	西鎌倉小学校	机上研修	『Google Classroomの使い方【基本編】』	18名
8	深沢小学校	5 月 19 日（水）	No. 8『いろいろなデータをみんなでシェアしよう』	27名
9	富士塚小学校	机上研修	『Google Classroomの使い方【基本編】』	19名
10	山崎小学校	1 月 24 日（月）	No. 1『校内でのICT活用についての報告会』	39名
11	小坂小学校	6 月 15 日（火）	No.1『～G Suiteを活用した職員会議の運用～』	30名
12	玉縄小学校	机上研修	『Google Classroomの使い方【基本編】』	11名
13	植木小学校	1 月 17 日（月）	No. 2『はじめてのSKYMENU cloud』	17名
14	関谷小学校	2 月 4 日（金）	No. 2『はじめてのSKYMENU cloud』	10名
15	大船小学校	9 月 3 日（金）	No. 2『学習支援アプリ・機材を使ってみよう！』	30名
16	今泉小学校	2 月 14 日（月）	No. 2『Googleドライブでファイルを管理しよう』	20名
17	第一中学校	9 月 22 日（水）	No.27『iPadを学ぶ 導入（基礎編）』	16名
18	第二中学校	9 月 8 日（水）	No.12『すべての人に使いやすい機能を使ってみよう！』	10名
19	御成中学校	3 月 23 日（水）	No. 2『はじめてのSKYMENU cloud』	25名
20	腰越中学校	机上研修	『Google Classroomの使い方【基本編】』	18名
21	深沢中学校	2 月 17 日（木）	No.1『鎌倉市のICT教育のこれからを知ろう』	19名
22	大船中学校	11 月 18 日（木）	No.34『クラスの提出物などを1つの場所で操作しよう！』	32名
23	玉縄中学校	机上研修	『Google Classroomの使い方【基本編】』	34名
24	岩瀬中学校	机上研修	『Google Classroomの使い方【基本編】』	25名
25	手広中学校	机上研修	『Google Classroomの使い方【基本編】』	20名

*参加対象：原則実施校の教職員

イ 基本研修

研修名等	回	期日・会場	テーマ・講師等	参加数
初任者研修	1	4月7日(水)PM 鎌倉生涯学習センター第5集会室	教育長講話・オリエンテーション・教職基礎研修等 鎌倉市教育委員会教育長 他	初任者研修対象者 20名（小11 中9） 初任者研修対象外 3名（中2 他1）
	2	8月19日(木) 中央公園 山崎小学校	鎌倉市教育委員会指導主事 五感教育研究所 室長 高橋 良寿 氏	初任者研修対象者 19名（小11 中8）
	3	8月24日(火) 鎌倉生涯学習センター第5集会室	教育センター指導主事他	初任者研修対象者 20名（小11 中9） 初任者研修対象外 1名（小1）
	4	1月28日(金)PM 鎌倉生涯学習センター第6集会室 オンライン開催	教育長講話・SDGsと学校教育について・研修の総括 等 教育長、教育センター指導主事他	初任者研修対象者 21名（小10 中11） 初任者研修対象外 1名（小1）
	年度内		研究授業（指導主事が参観）、校内授業研究会、他校訪問を各学校で実施	初任者研修対象者
1年経験者研修	1	2月1日(火)PM 鎌倉生涯学習センター第5集会室 オンライン開催	事故・不祥事防止研修 インクルーシブ教育に関する研修協議会	1年経験者研修対象者9名 （小6中3）
	2	年度内	研究授業（指導主事が参観）の実施	
	3	年度内	指定された研修会から1講座受講	
2年経験者研修	1	年度内	鎌倉市教育センター主催の「学校支援研修会」から2講座選択して受講	2年経験者研修対象者10名 （小10中10）
	2			
拠点校指導教員連絡会	1	4月20日（火）PM	職務について 初任者研修の研修内容・研修の進め方について	拠点校指導教員
	2	7月6日（火）PM	初任者についての情報交換	
	3	11月30日（火）PM		
	4	2月15日（火）PM		

ウ 教育指導員の派遣

教育指導員を派遣し、学級経営や授業づくり等について、スキルアップを目指す教職員のサポートを行う。

派遣校数 (延べ校数)	25	17	17	17	9	17	16	17	15	18	18	18	204校
指導対象者 (延べ人数)		29	29	32	16	30	28	34	28	33	32	32	323名

2 教育情報事業

(1) 教育資料の刊行

刊 行 冊 子 名	発 行	配 布 対 象
所報「かまくら教育」	年 2 回（7、1 月）	市内幼こ保小中学校教職員、関係機関
教育センターだより	年 3 回（10、12、3 月）	市内幼こ保小中学校教職員、庁内関係課
児童生徒の自立支援のために「アクションプラン」	不定期（10 月）	市立小中学校教職員
不登校の予防と対応ハンドブック	平成27年 2 月	市立小中学校教職員
小学校社会科学習資料「かまくら」	3 月	市内在住小学校 3 年生全員他
中学校社会科学習資料「私たちの鎌倉」	3 月＊デジタル版	市内在住中学校 1 年生全員他
中学校理科学習資料「鎌倉の自然」	3 月＊デジタル版	市内在住中学校 1 年生全員他
各研究会報告冊子	令和 4 年 6 月予定	市内小中学校教職員、関係機関
「幼児教育」（幼児教育事業報告）	令和 4 年 6 月予定	市内幼こ保小、関係機関 市内小中学校教職員
かまくら子ども風土記（第14版）	平成31年 3 月	市民他（有償頒布）
鎌倉教育史、続鎌倉教育史	昭和49年 3 月、平成 4 年 3 月	＊販売終了

学習資料改訂スケジュール

学習資料名	元年度 (2019 年度)	2 年度 (2020 年度)	3 年度 (2021 年度)	4 年度 (2022 年度)	備 考
小学校社会科学習資料 「かまくら」（第 19 版）	改訂作業	研究会で 改訂作業	研究会で 改訂作業	改訂作業	中学校向けの学習資料については、冊子配布は R3 までとし、デジタル化する。 小学校社会科学習資料のデジタル化については検討中。
中学校社会科学習資料 「私たちの鎌倉」（第 31 版）	—	—	改訂作業	（デジタル版）	
中学校理科学習資料 「鎌倉の自然」（第 17 版）	—	改訂作業	—	（デジタル版）	

(2) 教育情報の収集・提供

ア 鎌倉市役所ホームページ 教育相談 教育に関する研究・研修 教材・資料

<http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kyouiku/kyouiku/index.html>

教育センターサイト（鎌倉市小中学校教職員向け教育情報サイト）の運営

イ パソコン活用に関する資料の収集と紹介

ウ 学校教育活用資料の提供、貸し出し

エ 郷土・鎌倉に関する質問への対応並びに各種情報提供

オ 教材・教具の収集・提供

カ 研修会の動画・資料の提供

キ 教育資料の収集

「鎌倉教育史第三巻＜平成編＞」刊行準備委員会の開催（年 3 回）

ク 校外学習活用資料の提供

研究会で作成した「鎌倉市防災教育カリキュラム」「児童生徒理解」をはじめ、これまでに研究会で作成した道徳資料集「続かまくらのはなし」「国語」「算数・数学」「理科」「小学校英語」の資料集も、鎌倉市教育ネット＞教育センター＞教科等資料集のフォルダからダウンロードできます。

3 渉外他

(1) 他機関との連携（県教育研究所連盟関係）

行 事 名	期 日	場 所	内 容	備考
県教育研究所連盟総会	5月19日（水）	県立総合教育センター	事業計画、各研究所からの報告	
県教育研究所連盟指導主事研修講座	7月6日（火）	県立総合教育センター	情報・意見交換講演	
県教育研究所連盟教育研究発表大会	11月9日（火）	県立総合教育センター	研究発表講演	研究員参加 ※オンライン開催
県教育研究所連盟教育課題部会	1月27日（木）	横須賀市教育研究所	研究報告講演	※オンライン開催
県教育研究所連盟人材育成部会	1月31日（月）	厚木市教育研究所	実践報告講演	※欠席
県教育研究所連盟調査研究部会	1月18日（火）	大和市教育研究所	実践報告講演	
県教育研究所連盟教育相談・支援教育部会	8月26日（木）	県立総合教育センター	実践報告講演	※中止

(2) 教育センター運営協議会

書面会議により実施

(3) 市庁舎見学や市役所への職場訪問に関する調整

※市庁舎見学 受け入れなし

※職場訪問 受け入れなし

※総合的な学習の時間の調べ学習での関係課との調整 2校